



MIYOSHI
CENTRAL HOSPITAL

第16号

2011年4月

花みずき

市立三次中央病院だより

ボランティアによる
ロビーコンサート



ロビーに響く
穏やかな調べ

基本理念

私たちは地域の皆様から信頼され
親しまれる病院を目指します





「地域医療支援病院」を 目指しています

病院長 中西敏夫

市民の皆様にはすでにご存じだ
だいていますように、当院は備北地
域から島根県南部・岡山県北部にお
ける急性期医療（精密検査、手術、
入院治療等）及び高度救急医療を担
う中核病院です。当院では、この機
能をさらに強化するために、現在「地
域医療支援病院」となることを目指
しています。「地域医療支援病院」
となるには、次の要件があります。

①登録医制度

地域のかかりつけ医の先生がた
を登録する「登録医」制度を設け、
現在、60名の地域の先生がた（医
療機関）に登録をいただしていま
す。

②紹介患者さまに対する医療の提供

登録医と単に患者さまの紹介な
どで連携するだけでなく、お互い
の医療内容を共有することが求め
られます。このことにより、登録
医による診療と当院での専門的診
療を継続して受けることができます。

③病床、高額医療機器等の 共同利用、共同診療

依頼を受けて精密検査を行うだ
けでなく、登録医と病床も共有し
共同で患者さまを診療することが
求められます。

④救急医療の提供

登録医の依頼を受けて、二次救
急医療を提供することが求められ
ます。

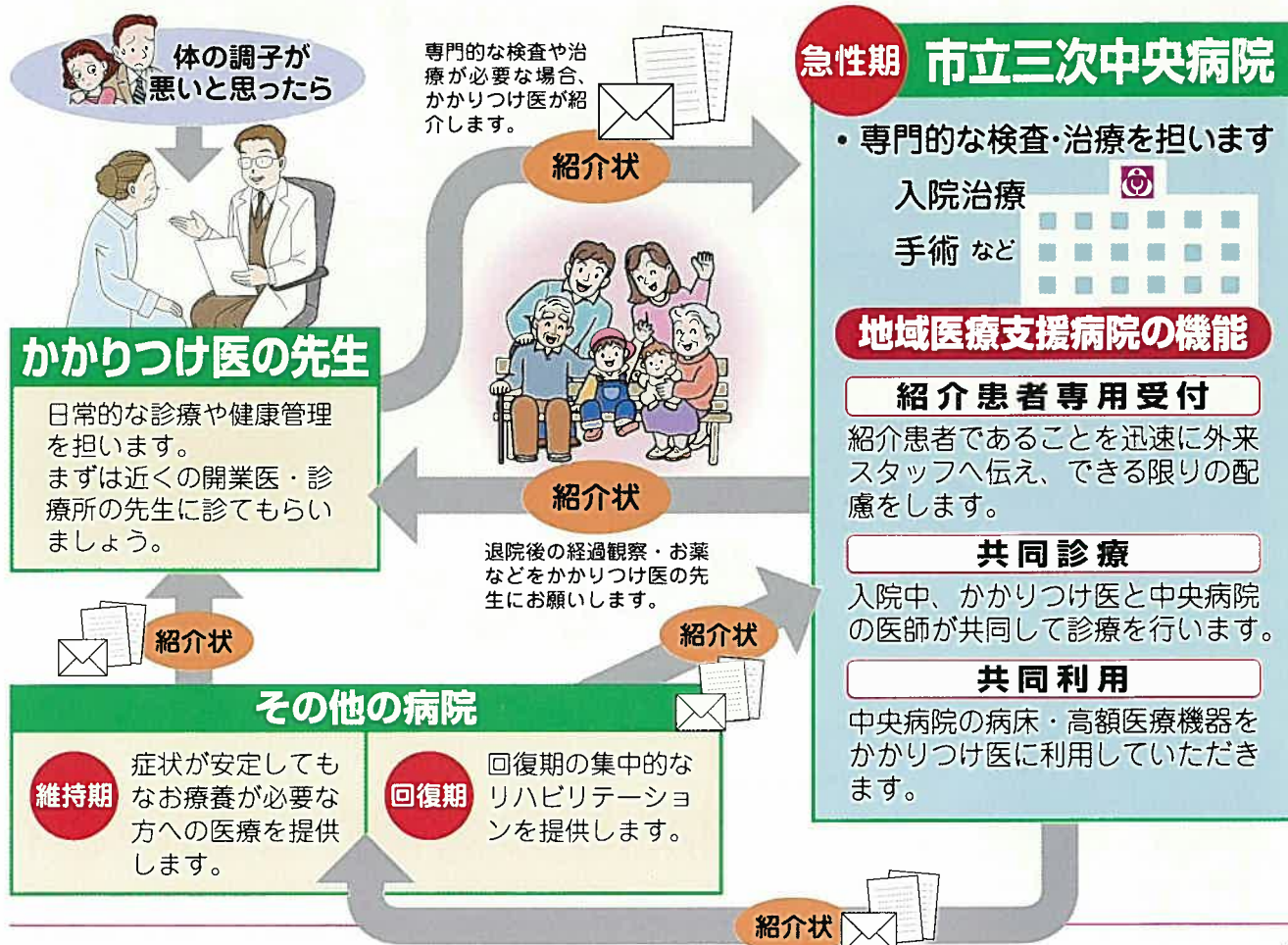
⑤地域の医療従事者に対する研修

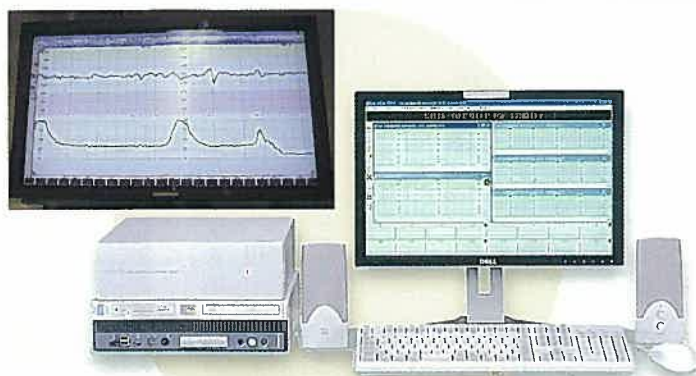
地域の医療従事者の方々を対象
にした研修を行い、最新の医療情
報を提供し、地域全体の医療の質
を向上していきます。

⑥地域医療支援病院運営委員会の 設置

機能推進のために学識経験者な
どを含めた委員会の設置が求めら
れます。委員会はすでに発足した
ところです。院外の方として、三
次地区医師会会長、庄原市医師会
会長、北部保健所所長、三次市福
祉保健部長、三次市社会福祉協議
会会長がおられます。

このようないくつかある要件をす
でにクリアできるようになりまし
た。今後、さらによりよい形で地域
完結型の医療を提供できる体制の進
化をすすめていきたいと思ってい
ます。地域のかかりつけ医の皆様
のみならず、地域（市民）の皆様にも
地域医療連携が有意義なことを、ま
たさらに機能がよくなったことを実
感していただけることを期待してい
るところです。





母体胎児集中監視システム

出産間近のお母さんと胎児の心拍呼吸情報をナースステーション等で集中監視する分娩監視装置です。

昨年9月から備北二次医療圏で唯一の分娩可能病院になったことに伴い、機器を更新し、外来と産科病床をネットワーク化し、医師が外来で診察中でも母体胎児を診察することが可能となりました。

このシステムの機能及びネットワークの規模は、広島県内でも、トップクラスの環境になりました。

最新鋭医療機器導入!

昨年度、導入しました主な医療機器を紹介します。



デジタルX線テレビシステム



健診時の胃のバリウム検査で使用するX線テレビシステムを更新しました。

最新のデジタル技術を用い、これまでより格段に画像が鮮明になり、病巣の早期発見につながります。また、被ばく線量も低減し、患者さまにより安全な機器となりました。

超音波ビデオスコープシステム



広島県内初で、全国でも数台しかない最新鋭の機器を導入しました。大病院へ検査依頼していた患者さまも本院で検査・処置ができるようになりました。

先端に超音波診断と組織採取する装置が付いた内視鏡です。従来の内視鏡と違い胃腸や気管の壁の裏が観察できる機器です。血流状態を観察しながら検査ができるため、出血を抑えながらの処置が可能となります。

リニューアルを順次行っています



5階病棟廊下



5階デイルーム

連載 がんの治療⑦

外科医長 内藤 浩之

胃がんの外科的治療

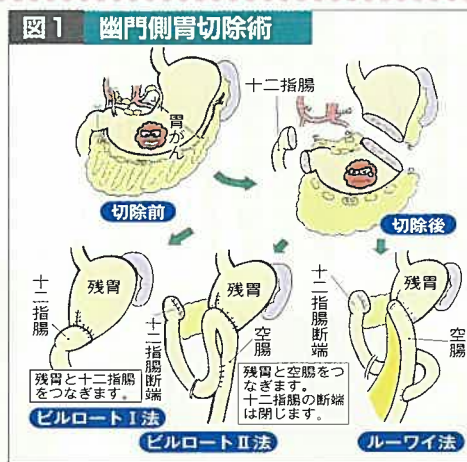
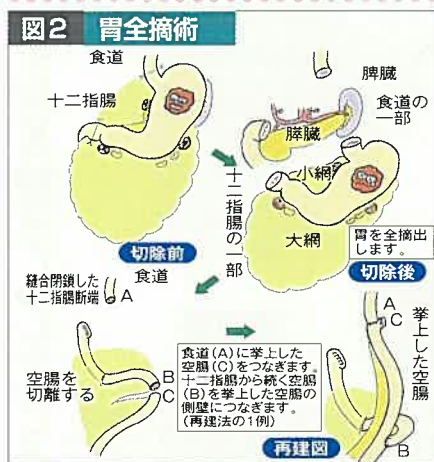
前回（花みずき第14号連載）がんの治療⑤は、胃がんの内視鏡治療をご紹介しました。今回は、胃がんの外科的治療についてご紹介します。

治療

リンパ節に転移している可能性がほとんどない早期胃がんの場合には内視鏡による切除が可能です。最も有効で標準的な治療です。胃の切除と同時に、決まった範囲の周辺のリンパ節を取り除きます（リンパ節郭清）。胃の切除の範囲は、がんのある場所や病期の療法から決定します。また、胃の切除範囲に応じて食物の通り道を作り直します（消化管の再建）。遠隔転移などのために手術で切除しきれない場合や、手術後にがんが再発した場合には化学療法（抗がん剤治療）を行います。

手術方法

一般的に良く用いられる手術は、胃の下部2/3程度を切除す



幽門側胃切除術（図1）と、胃を全部切り取る胃全摘術（図2）です。胃の一部を切除したり、胃の上部を切除する噴門側胃切除術

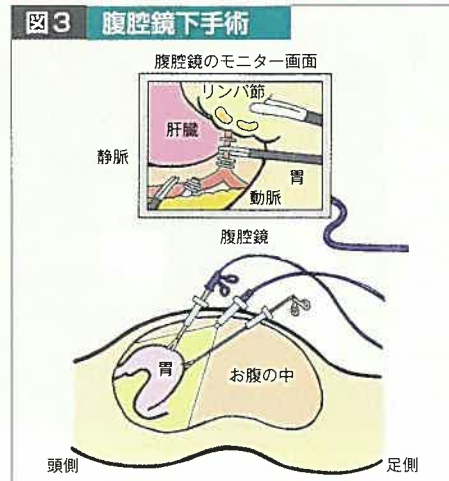
写真1 腹腔鏡下手術の様子



は適応が非常に限られています。内視鏡的切除の適応とならない早期胃がんや、内視鏡的切除を行ったもののがんが思ったより深かったとか、リンパ管侵襲があるなどで追加の治療が必要という場合、最近では腹腔鏡補助下での手術を行うこともあります。（図3、写真1）

これは腹部に小さい穴を数カ所開けて、専用のカメラや器具で手術を行う方法です。通常の開腹手術に比べて、体への負担が少なく、手術後の回復が早いいため、手術件数は増加しています。ただしリンパ節郭清が難しいこと、合併

図3 腹腔鏡下手術



症の発生率がやや高くなる可能性も指摘されており臨床研究として行うべき治療と位置づけられています。

手術後の注意点

胃がんに対して手術を受けると、胃が小さくなったり無くなったりしてしまいます。消化や吸収に大きな変化はありませんが、一度にたくさん食べられなくなり、1日の食事の回数を増やすなどの工夫が必要になってきます。また食べたものが早期に腸へ流れ込むことにより、ダンピング症候群と呼ばれる下痢・腹痛・冷汗・立ちくらみなどの症状が出る場合があります。ゆっくり時間をかけ、よく噛んで食べるようにする必要があります。



人工（心臓）ペースメーカー

循環器内科 医長

田中 幸一

① 徐脈性不整脈

人間の心臓の中には自発的に興奮するペースメーカー（洞結節・図1）があります。洞結節にて一定間隔で発せられた電気刺激が図1のように順々に心筋を伝わって初めて規則正しい心拍動が起こります。この電気信号の発生や伝達が悪くなった結果、心臓の収縮回数が非常に遅くなったり時々停止してしまったりする病気が徐脈性不整脈です。

徐脈性不整脈では心臓の働きが十分でないことによる心不全、脳

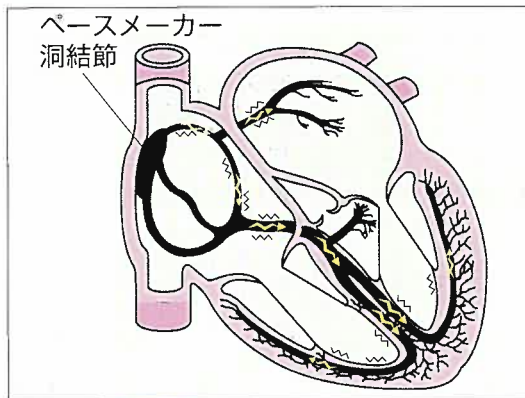


図1 心臓の刺激伝達

② 人工ペースメーカーとは

洞結節のかわりに脈拍を作り出してくれるのが「人工ペースメーカー」です。

脈が遅くなっている心臓に対して、電気的な刺激を与えて脈拍数を正常にします。多くの徐脈性不整脈の場合、人工ペースメーカーで刺激する以外には確実に有効な治療法がありません。

への血液低下による意識消失やふらつき、全身への血流低下による倦怠感や疲労感が生じ、また場合によっては全く心臓が停止したままになったり致命的な不整脈が出たりして死亡する可能性もあります。

③ ペースメーカーの種類

ペースメーカーには一時ペースメーカーと永久ペースメーカーがあります。

緊急時に使用するの是一時ペースメーカーです（図2）。多くの場合一時ペースメーカーで緊急時をしのいだのちに、体内植え込み式の永久ペースメーカーが必要になります（図3、図4）。

④ 永久ペースメーカーの寿命

永久ペースメーカーは電池で動いており、普通は6年から8年程度で交換手術が必要です。ただし患者さんそれぞれで使用する電気

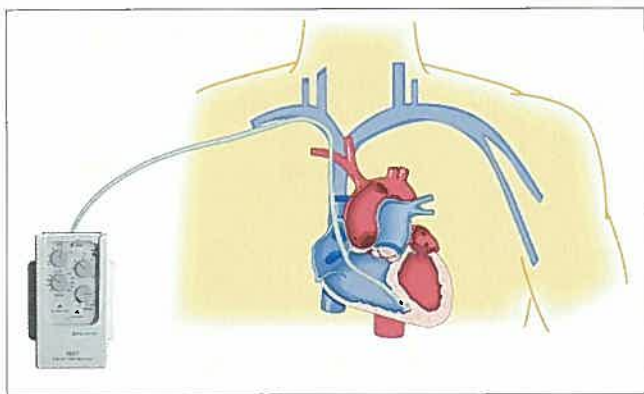


図2 一時ペースメーカー

量が異なるので、ペースメーカー電池の寿命も長くなったり短くなったりと異なっています。ですから決められた定期チェックは必ず受けて電池が切れる前に交換手術を受けなければなりません。



図3 永久ペースメーカー本体と心臓に達するリード

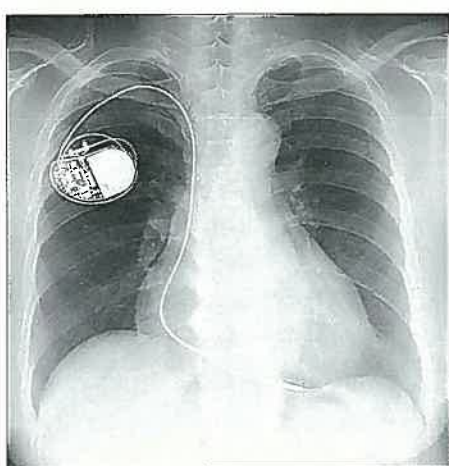


図4 永久ペースメーカー移植後のレントゲン写真

生活全般をみすえた リハビリ・作業療法

リハビリテーション科

中井圭子

作業療法とは？

リハビリテーションという言葉を聞いて、皆さんはどんな光景を思い浮かべられるでしょうか？

おそらく病院内の訓練室で、脳卒中を患ったり、骨折等のがをされた方達が一生懸命に歩いたり、手足を動かす訓練をしている様子を連想されるのではないのでしょうか？

実は、このような訓練をするのはリハビリテーションの中で「理学療法」と呼ばれるものです。理学療法は、理学療法士が自らの手や体を使ったり、様々な治療器具の力を借りて患者さまの手足を動かす訓練を行います。

一方で、作業療法はその訓練を様々な作業や活動を通じて行うものです。

では、ここでの作業とは、一体どういうものなのでしょうか？



それは手工芸などに限られたようなものではなく、日常生活における様々な動作も含めて、人が日々行っていく生活全般の行動に関わる広範囲のものを全てを含んでいます。「作業」とは「何かをしている、何かをして時間を過ごす」ということを意味している言葉なのです。

皆さんも「何かに夢中になっているうちに、不安や心配事を忘れていた」「熱中していて痛みや疲れを感じなかった」という経験はありませんか？「作業」にはそんな不思議な力があります。

「リハビリ頑張るぞ」と構えることなく、作業に取り組むことで自然と訓練に取り組むことができるのが作業療法です。

作業療法士の役割

作業療法士は、それぞれの患者さまの心身の状態を見極め、

その方が日常生活を行っていく為になにが必要か、またその為にはどのような能力が必要なのかを考え、最も相応しい作業種目をを用いることで、治療・訓練を行います。

治療・訓練の中には、患者さまの心身の基本的な機能に直接アプローチすることもありますが、また、一方で身体が損なわれてしまった患者さまに、自助具と呼ばれる日常生活を助けてくれる道具を提案したり、生活環境に工夫を加えることで残された能力を最大限に活用するアドバイスをしていくことも作業療法の担う大きな役割の中の一つです。

それは、食事をする事、お風呂に入ること、トイレに行くことや、洗面や髪の毛を整える整容動作も含めた毎日繰り返している動作に始まる家庭復帰、そこから社会復帰に向けた応用的な動作等も含んだ多種多様なものです。

患者さまと共に考える 今後の生活

当院は急性期病院ということもあり、発症後、手術後間もない患者さまが多い環境でリハビリを行っています。

その中で私たち作業療法士は、患者さま方が強い痛み、今後の生活に対する不安、今までの自分と比べての喪失感と戦っておられる状況に寄り添い、患者さまと共に今後の生活をより充実したものにしていく目標に向かっていくことができればと考えております。



認定看護師

シリーズ



がん化学療法看護認定看護師

原田 奈津子

私は平成二十一年七月にがん治療のひとつである、がん化学療法看護分野の認定を受けました。現在全国に六二五名、広島県内には一八名の仲間がいます。

私たちの役割は、

- ①安心して治療を受けていただくための投与管理
- ②治療中、後の副作用を乗り切る方法の検討
- ③その人らしい生活を送るための支援



であり、抗がん剤治療を受ける患者さまの治療の決定時から関わっています。また、院内のスタッフへの抗がん剤の取り扱いに関

する知識や技術の普及を行っていくことも求められます。

皆さんは抗がん剤治療と聞くと、どのようなイメージをもたれるでしょうか？「吐き気が強い」「髪の毛が抜ける」「お金がかかる」などのイメージが強いのではないのでしょうか。

近年、多くの治療薬が開発されており、副作用に対しても、以前のように強い吐き気やおう吐に苦しまず、にすむような薬も開発されています。しかし脱毛や手足のしびれ、発疹など避けることのできない副作用があることも事実です。それらの副作用に対しては事前の準備やご自分で行えるケア、早期に薬で対処するなどの方法があります。治療を始める前に、起こりやすい副作用や対処方法、日常生活の注意点などを知っていただくことで、体への負担を少しでも軽くしたいと考えています。

治療のこと、副作用のことなどどうぞお気軽にご相談ください。

セット食

治療に伴う副作用で食欲不振のときに食べやすいメニューをつくりました

栄養科

吉 永 洋 子

メニューの一例

月曜日



お刺身セット

火曜日



親子丼セット

水曜日



たこ焼きセット

木曜日



散らし寿司セット

金曜日



うなぎ蒲焼セット

土曜日



カレーセット

最近ではがん化学療法や放射線治療で食事が食べられない患者さまが増えています。その対策として、栄養科では新たに『セット食』という形での食事提供をはじめました。治療や症状により食事が食べられない方を対象にしていますが、治療食の患者さまもいらっしゃると思いますので、主治医や担当看護師に確認しながら提供させて頂いています。現在は夕食時のみで6日間のサイクルメニューになっています。患者さまからは「食べやすかった」「食欲がアップするきっかけになった」「こんなメニューも取り入れてみては？」など沢山の意見を頂いています。今後は患者さまの声も取り入れ、季節に合わせたメニュー

ニューや症状別の献立を増やすなど見直しをしていきたいと思っています。セット食以外にも食事の量を半分にしたリ、酢の物・梅干し・冷や奴・卵豆腐・ヨーグルトやデザートなど食べやすい物への変更や、食事が少ない方には少量で栄養がとれるように栄養補助食品を付加したりしています。

病院食は必要栄養量の食事を提供し食べて頂くことで栄養状態の維持に努めます。また、少量でも美味しく食べられたという患者さまの精神的な満足感を満たすことも治療効果を高めるために重要だと思っています。患者さまに喜ばれる食事提供のために今後も栄養科全員で取り組んで行きたいと思っています。



平成23年度

奨学生募集

将来、市立三次中央病院で働く人を対象に、三次市医療技術職員修学資金の奨学生を募集します。

対象者

- ・助産師・看護師の養成施設に在学する者であること。
- ・将来、市立三次中央病院で助産師・看護師として勤務しようとする者であること。
- ・平成23年度は養成施設の最終学年に在学する者を対象とします。

貸付月額

月額50,000円を限度とします。

申請方法

申請は養成施設を通じて行っていただきますが、申請書等については病院企画課までお問い合わせください。

受付期間

平成23年 4月18日(月)～5月31日(火)

返還免除

養成施設を卒業し、1年以内に助産師・看護師の免許を取得し、市立三次中央病院で助産師・看護師として業務に就業し、引き続き従事した期間が、修学資金の貸付を受けた月数の1.5倍以上の場合は、返還を免除します。

貸付期間 1年間(12ヶ月)

50,000円×12ヶ月=600,000円

市立三次中央病院での勤務期間18ヶ月

全額免除

問い合わせ及び応募先

市立三次中央病院
病院企画課病院企画係

三次市東酒屋町531番地

TEL(0824) 65-0101

FAX(0824) 65-0150

癒しの空間



1階エントランスホールのキャッシュコーナー横にある展示スペースを、開放しています。ボランティアの方々による、癒しの空間づくりにご利用ください。

お問い合わせ 地域医療連携室

紹介状をお持ちください

当院は「かかりつけ医」と連携して地域の皆さまに必要な医療を提供しています。「かかりつけ医」の紹介状には今までの経過や検査結果、薬などの情報が書かれているので、無駄のない円滑な医療を提供することができます。

初診時保険外併用療養費

初診の方で紹介状をお持ちでない場合、医療費とは別に初診にかかる費用をご負担いただきます。

「かかりつけ医」から診療予約ができます

「かかりつけ医」の先生から「地域医療連携室」へご紹介いただくと、症状に応じた専門科医師の診療予約ができます

お問い合わせ 地域医療連携室

救急診療について

診療の準備をしますので、事前に電話連絡をお願いします。保険証をご持参ください。

TEL:0824-65-0101(代)